

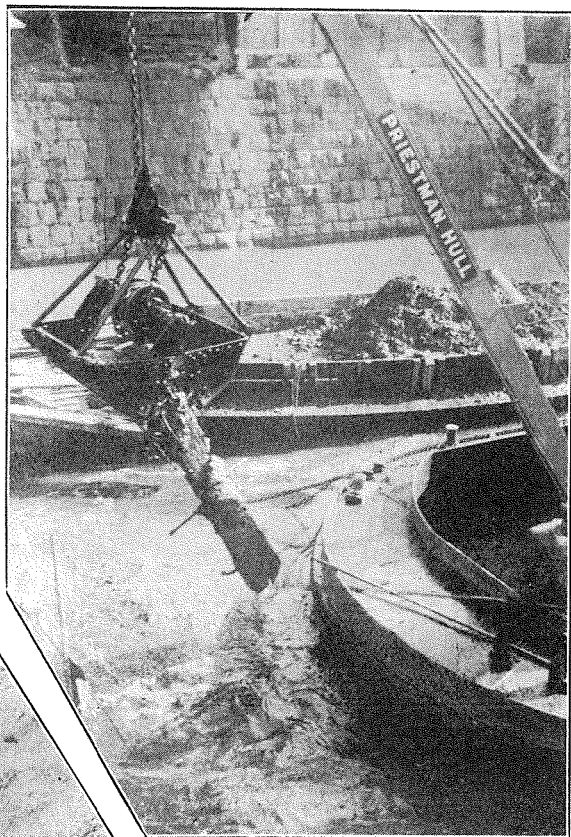
アトム、スケッチ

ケイ 記者

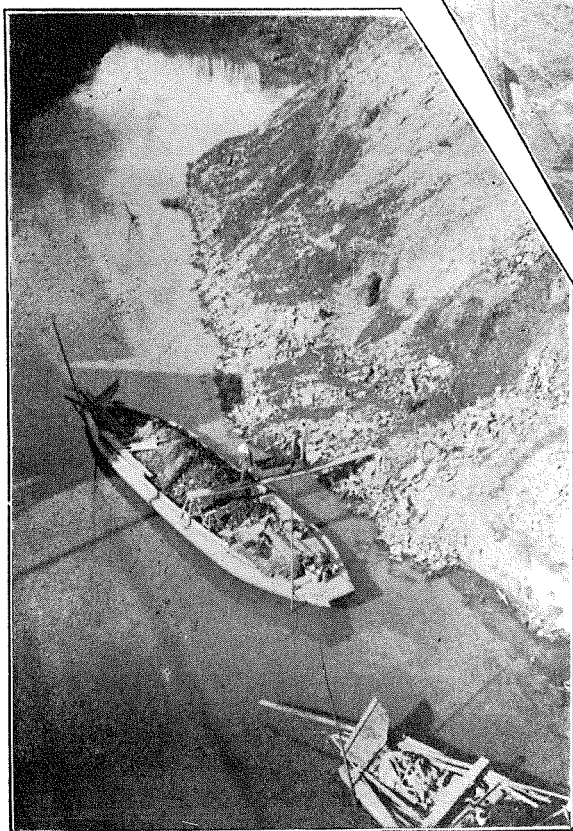
編輝長さんの約束があつたので、此の日曜日を幸ひ、ゴルフのテナックスをポケットにして、池袋驛から山の手線にのる。

お正月気分の人達で、驛は中々混雑してをる、車内はポケットのカメラを潰されはせぬかこ、案ずる程に押合つてをる。

山の手線は全部改良工事をやつてをるので、スケッチの材料は澤山にあるが、鐵道以外さ云ふ注文なので、昨日見當をつけてをいた飯田町驛に下車する。



プリストマン式浚渫船のバケツ(お茶の水)



お茶の水の焼灰積込

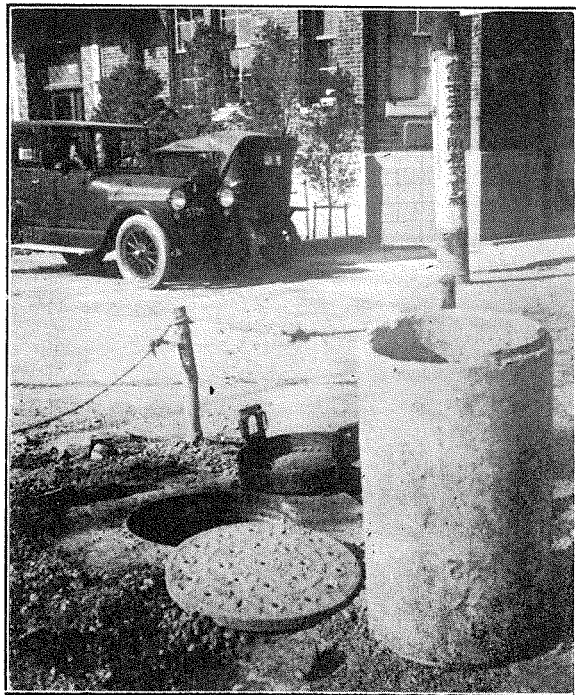
1

驛前の堀削を見るに、プリストマン式ドレッヂャーで河浚をやつてをる。

プリストマン式も随分古い昔もののだが、昔ものだけに操縦には要領を得たもので、仕事に無駄がない。寒い河風をうけ乍ら橋の上から、五六人の人が川をのぞき込んでをる。震災當時の遺物か何か材木の様なものを、バケツに咬へた處をバチリ。

2

水道橋迄徒歩で砲兵工廠側を見るに川岸で泥揚をしてをる。此の海泥は日本家屋の建築材料として東京になくてならぬものの一つだキメの細かいベトベトの海泥を、船から二人の若い衆がタンカ式に提



日本クラブ前のマンホール

(前ページより)

け出す、陸では之を二人の老人が手車で積込んでをる、餘り舊式なので撮らないお茶の水迄省電に乗る、お茶の水橋の上から此の仙臺堀を見下すこ、何時も乍ら東京離れのする氣分になる。

女學校前の川岸下で、例のタンカ式で焼跡の灰の船積をやつてをる。此は船頭夫婦がやつて居るので中々能率が擧つてをる。タンカ式を提けてる處を一枚バチリ。

3

お茶の水橋の傍には古金買が量を以つて出張つてをる、例の灰の中からの堀出物を此所で取引してをるのである、聖堂前の聖橋は復興局の工事で片側のアバットが出来上つて静かな氣配であつた、萬世橋へ出るこ上總堀で堀抜井戸を

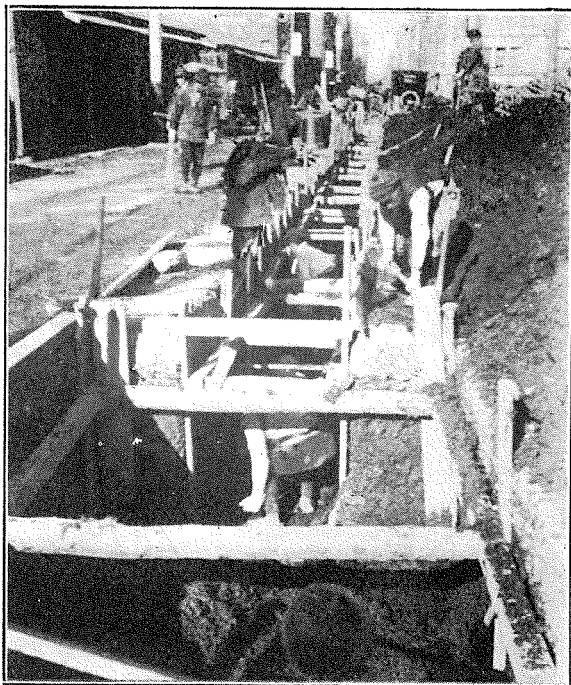
やつてをる、一枚撮つたが現像したのを見るこ物にならなかつた。

萬世橋驛は修理が出来た處であつたから廣瀬中佐銅像の下から驛の入口を一枚撮つた、神田驛から省電で有樂町驛迄行く此邊は車内も餘程するてをる。

銀座へ出て例の金城商會へ現像焼付を頼んで同時にプレートを入換へて貰ふ。

此の六枚は所澤飛行隊が使つてをるこ云ふ、和製のオリेंट乾板を初めて使つて見た、現像の時幕面が溶け易いこ云ふ話であつたが冬の事だから支障なかつた。

全部F=4.5の二十五分の一で撮つたが現像の結果はイルホードの様に鮮明に行かなかつた。

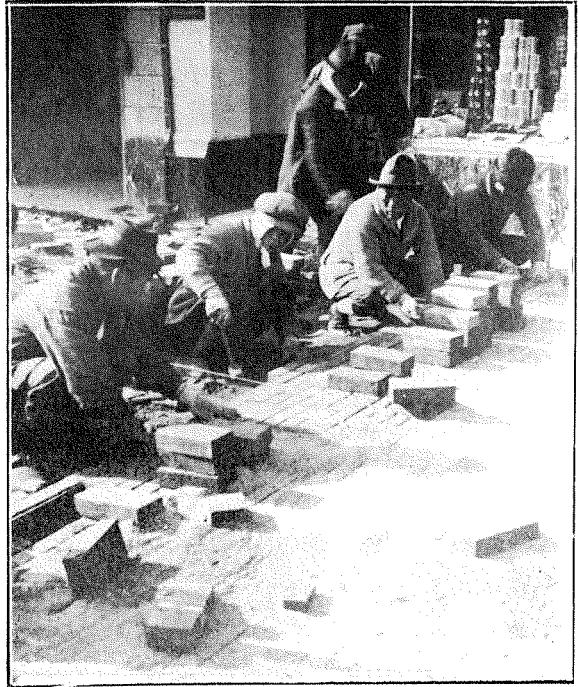


警視廳裡の下水工事

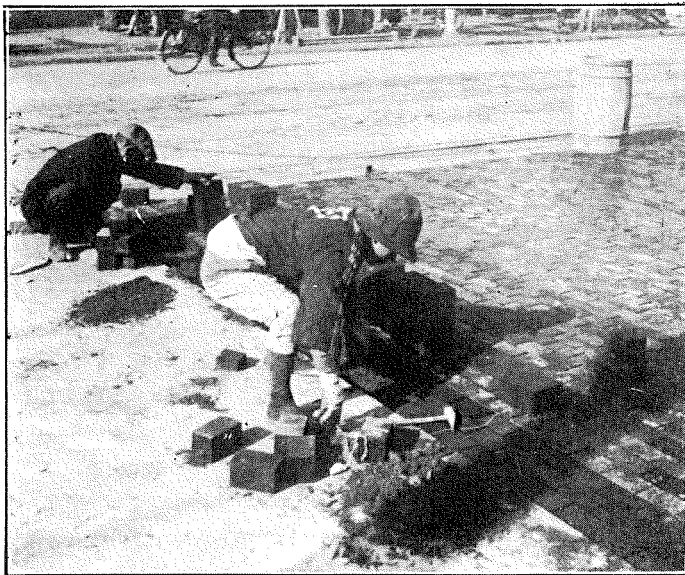
4

銀座通りの人道で煉瓦の舗装をしてをる、行く人の多い賑かな中でやる仕事にかゝはらず、五月の田植式に後しざりし乍ら職入の手は能く運んでをる、煉瓦の目筋へは砂を箒込むでをる、簡単な仕事である。

(記者申す、以上はアトム判を手札に引伸して銅版に作ったものであるが、アトム判そのままよりも畫こして見好くなりました、工事寫眞は或部分を大きく撮る方が良いと思ひます。)



銀座の煉瓦舗装



銀座の木煉瓦舗装

5

同じ銀座通りの向側車道では繩張りの中で木煉瓦の舗装をやつてをる。

列べる方よりアスハルトを目筋へ流込む方が餘程注意を要する様である。